

番号	発言者	説明・意見
1	藤野	文化政策とは、地域に固有の市民文化を作っていくこと。
2		地域の固有性を、文化振興にいかしていくこと。
3		条例を基に、計画を作り、計画を見直しながら文化政策を進めて行く。
4		豊岡では子どもの頃から質の高い文化芸術の体験が必須となっており、身体的文化資本を高めている。
5	谷口	地域の人が集まるといつも秋まつりの話になる。
6		神輿の担ぎ手が、地域の人、転出した人、地域以外の人に応援で実施できているが、地域以外の人に応援なしでは実施できない状況になっている。
7		関西学生放送連盟に映像を作ってもらって、情報発信をして、地域以外の人や、関西外国語大学の学生に声をかけて応援者を募った。
8	甲斐	文化芸術の振興のため、地域の人が身近に文化芸術を感じてもらえるようにサポートしている。
9		織物工場の使われなくなったものを使って、展示会を行ったり、様々な芸術イベントに関わっている。
10		三津漁港でのアーティストインレジデンス事業は、漁協もなくなってさみしくなった地域に変化をもたらせた。
11		新たな人の集まりができ、カフェもでき、三津灯台50周年イベントもできた。
12	長嶺	フランスに住んで芸術活動をしてきたが、京丹後市に移住してきた。
13		各地で展覧会やアーティストインレジデンス事業を行っている。
14		古い建物を使ったり、模型を作って過去と現在と未来を表現し、その展示プランをもとに実演してみたりしている。
15		パリでは、ロゴマークを作り、ロゴマークと同じ場所に行き写真をとった。
16	田中	高校のいさなご探求の授業で、芸術や音楽を作るグループに入っている。
17		海の音や、うし蛙の音を録音してきて、丹後をイメージした音楽を作ろうと思っている。
18		秋に丹後王国で開催される丹後万博のステージ企画を手伝っていて、企業と高校生と京丹後市が連携して準備を進めている。
19		峰山高校からは、軽音楽部や吹奏楽部が出演予定。
20	田中	これからのまちづくりについて、中学校3年生の時からコロナが始まり、吹奏楽部に入っているが演奏会や発表会が中止となった。
21		コロナの中でも、高校3年間しかないのも、文化芸術が発展するため、リモートで演奏会を行い、感想を出し合うとか、そういった取り組みがしたい。
22	長嶺	アートの目的はコミュニケーションをとること。

23	長嶺	アーティストの立場からいうと、アートについて議論がこうやっておこっていることがいいと思っている。
24		そういった機会が芸術を通して、今後もまきおこることを望んでいる。
25		他の地域を追いかけるのではなく、このまち独自のもので、交流の場が広がればと思っている。
26	甲斐	審議会のアドバイザーもしていて、京丹後らしさをどう表現するのが課題。
27		産業、食、文化、総合して表現できるものがほしい。
28		北近畿一体で連携できるものとしたら、テキスタイル（織物）の産地であるので、演劇の豊岡の衣装を作るという部分で、連携できる。
29		京丹後の本物はシルクだと思う。
30	谷口	まつりの担ぎ手の減少、楽しいよりもしんどい、痛いが増えてきた。
31		10年後、20年後も地域以外の応援を入れる。
32		今年度は、アメリカ軍経ヶ岬通信所の人にも応援のお願いをしている。
33		久美浜一区は秋祭りなので、久美浜の春まつりを実施しているところに、お互いに応援に行くことができないか相談している。
34		今回の計画では、芸術文化の枠にまつりが入るので、まつりの大切さや、情報発信の仕方等具体的に入れて、地域のまつりの支援をお願いする。
35	参加者	東京からUターンしてきたが、京丹後市は文化頑張っていると思う。
36		学校に行っている子が、カヌー体験とか、ピアノリサイタルとかのお便りを持って帰ってくる。
37		一般の人へは情報が届いていない。
38		活動がそれぞれ点であって、線になっていない。
39		SNSを活用して、文化的活動をもっとアピールしていかなければいけない。
40	谷口	自治会だよりを出すのが、世帯主ぐらいしか見ない。SNSも伝え方を工夫すれば、わかってもらえるようになる。
41	甲斐	峰山高校の探求の授業で、美術館や博物館が鑑賞の機会が少ないと行っていた、アートに関心のある子は、自分から情報を取りに行っている。
42	田中	毎日芸術に触れていたい。森があったらそこにあった、軽音楽やJポップこれも芸術と思う。何が芸術か考え直すことが大切。
43	長嶺	フランスでは、子どもが美術館等に入るのはほとんどタダ。いろんな施設があるが入りやすくハードルを下げている。
44	藤野	地域固有の文化芸術を残し、観光と結びつける。但馬の願いがかなってできた専門職大学だが、北近畿としてのつながりを強めたい。
45		各市町ばらばらではなく、テキスタイル（織物）のように日本海側が一緒になって情報発信する、そして北近畿全体で県境を越えたつながりができていけばいい。